

飼料生産基盤の脆弱な地域における 「安定とゆとり」を追求した酪農経営

徳島県 大松修二・法子



香川県

大松牧場



牧場の位置

経営の立地条件

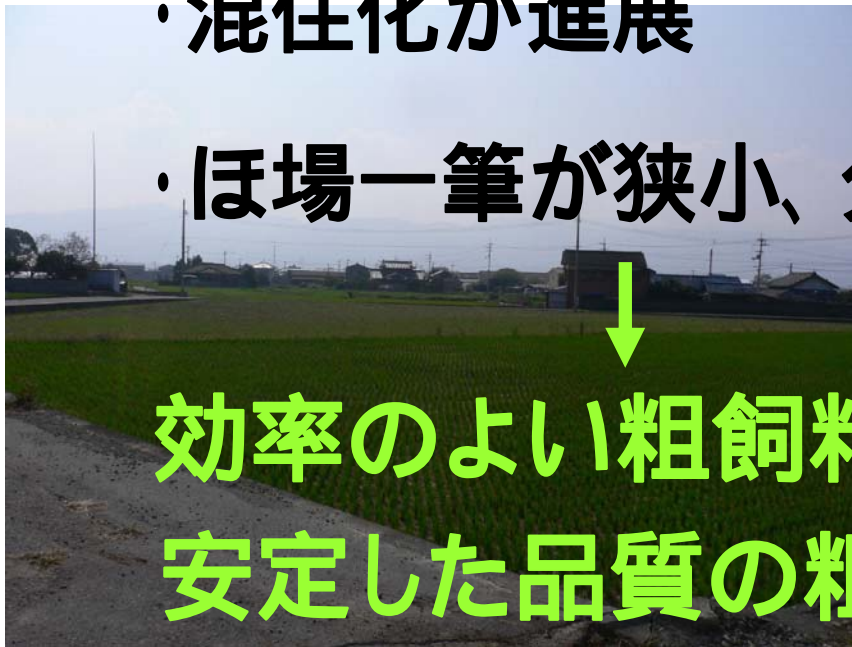
- ・周辺はイチゴ、トマト、レタスなどの産地

- ・混住化が進展

- ・ほ場一筆が狭小、分散

↓

効率のよい粗飼料生産ができない
安定した品質の粗飼料ができない



経営のあゆみ

年次	内容
昭和31年	父親が酪農を開始
平成5年	66頭規模の繋ぎ牛舎完成
平成8年	自動給餌機導入
平成12年	Uターン就農し経営を引き継ぐ
〃	普及員を講師とした月1回の勉強会に参加
〃	牛群検定開始
〃	ロータリー乾燥機増設
平成16年	飼料購入量減少し1頭当り3,000kg乳量増加

就農当初の苦しい状況

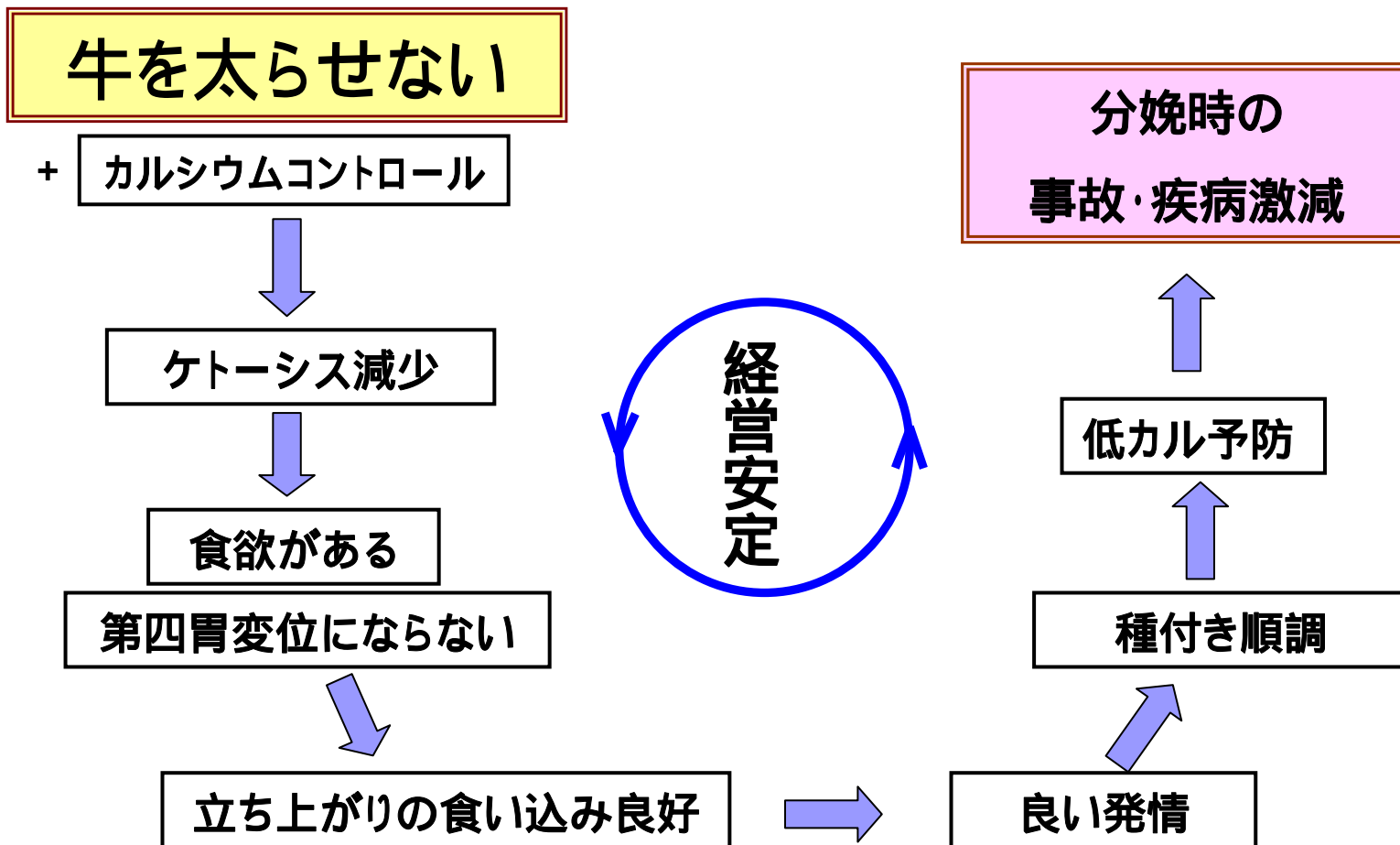
- ・分娩時の事故廃牛、ケトーシス、低カル、四変
- ・分娩後立ち上がりが悪い
- ・種が付かない
- ・乳房炎の発生

原因が分からない ↓ 苦しい経営

勉強会に参加、理屈を知り、牛を見る眼を養う

答えは牛を**健康**に飼うこと

最初の取り組み





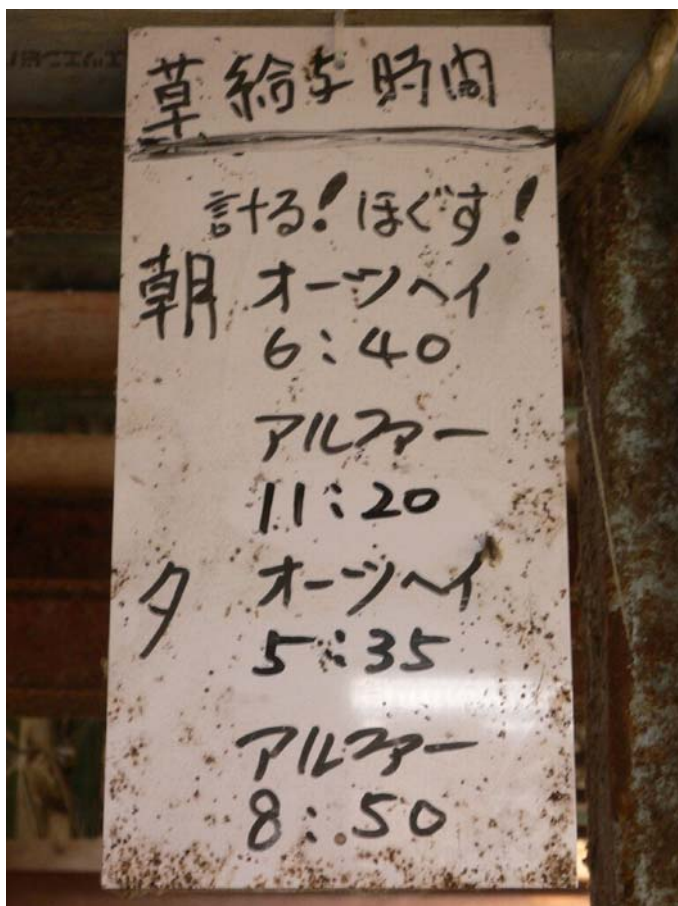
私の給与量決定方法

- **飼料計算に頼らない** **牛が答え出す**
 - ・活力、ボディコンディションの変化、ルーメンの張り、毛づや、フンの状態など毎日の観察により給与量を決定
 - ・牛群検定データの乳脂率と無脂固形分率、MUNと乳蛋白を参考に給与量やバランスを調整

経営の特徴？



飼料給与スタイル



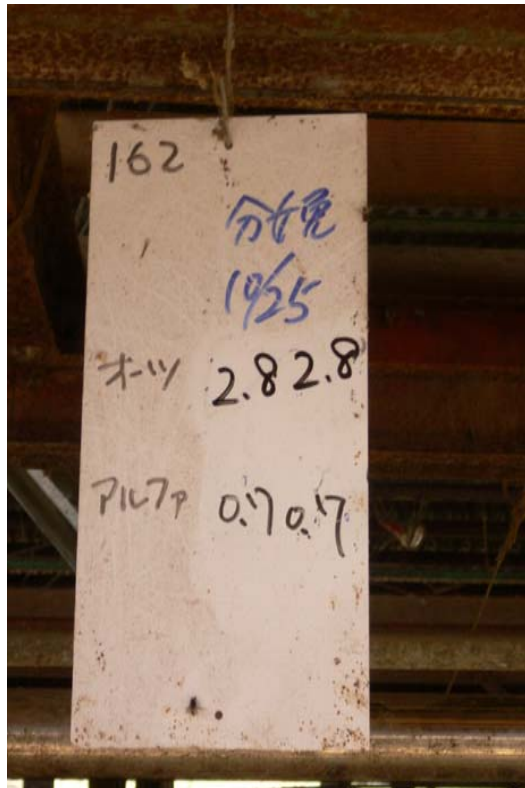
粗飼料給与時刻



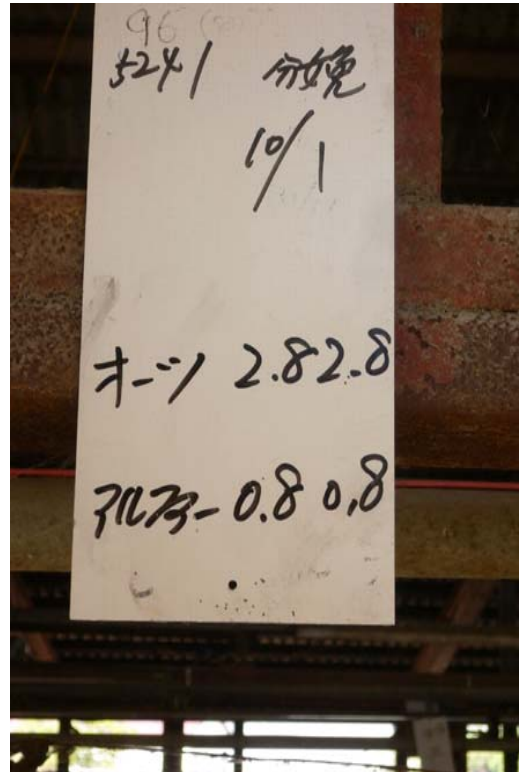
自動給餌機の活用

1日7回に分け給餌

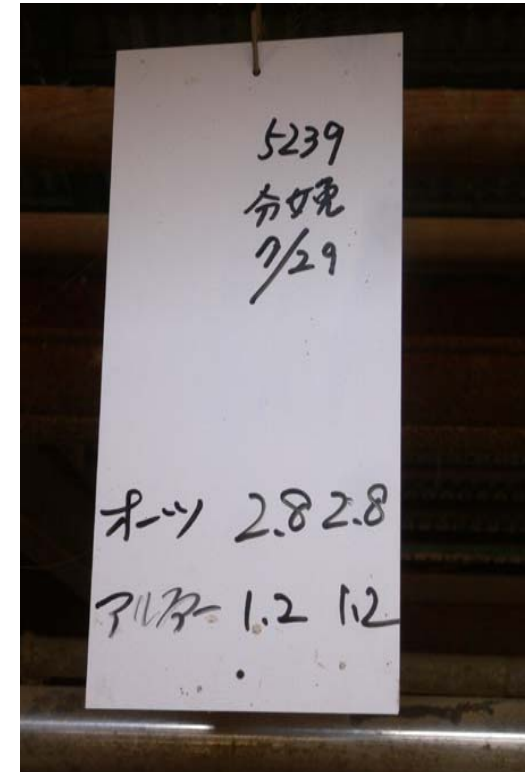
1頭ごとに異なる粗飼料給与表



オーツ 2.8 kg
アルファ 0.7 kg



オーツ 2.8 kg
アルファ 0.8 kg



オーツ 2.8 kg
アルファ 1.2 kg

過不足のない飼料給与



粗飼料は秤付きの給餌車で1頭毎に計量しながら給与

無駄のない飼料給餌



30頭1日分の残飼量

摂取量を増やすための環境作り

- ・寝起きが楽なウレタン牛床マットの設置
- ・牛が水を飲みやすい大型水槽
- ・暑熱対策に欠かせない送風機の増設 etc



発酵乾燥施設による堆肥処理



ストック



戻し堆肥

「牛を健康に飼う」

飼料を過不足なく与える

疾病・事故減

乳量増

種付け順調

無駄がなくなる

収入増

低コスト化・手間減少

牛が健康ならばゆとりが生まれ儲けにつながる

酪農家キーニィの牛飼いの哲学

「私たちはあなたの乳牛です。
私たちはあなたのくださるものを食べ、
飲ましてくださるものを飲み、
住ましてくださるところに住みます。

よい牛にもなれば悪い牛にもなります。
丈夫にもなれば弱くもなり、気持ちよく暮らすこともでき、
不愉快にもなります。
このように**私たちの運命は酪農家まかせなのです。**」

(酪農家キーニィの牛飼いの哲学マーク・H・キーニィ著市川・清水訳デイリーマン社出版より引用)